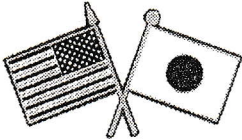


29 MAR 2004



第22号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：<http://www.bouei.com/groups/jaaga/>

イラクへの自衛隊派遣と日米同盟

会長 村木 鴻二



Gen (Ret.) Muraki

いよいよ自衛隊は、3自衛隊がそろってイラクでの人道復興支援のため活動を開始しました。陸上自衛隊は、イラク南東部サマワに宿泊施設を建設し、医療、給水、そして学校などの公共施設の復旧・整備を、海上自衛隊は、輸送艦、護衛艦をもって、陸自の輸送・補給を、航空自衛隊は、クウェートに駐留、C-130輸送機をもって、クウェートとイラク国内で人道復興関連物資などの輸送を、それぞれ実施しています。

今回の自衛隊派遣は、仏や独がイラクへ軍隊を派遣していないことや、大量破壊兵器が発見されていないことから、対米追従の「大義なき派遣」と反対する向きもありました。しかし、果たしてそうでしょうか。

フセイン体制に代わる秩序の建設を怠れば、イラクが国際テロ勢力の基地と化してしまうこととなります。国際社会はイラク戦争後、国連において、多国籍軍派遣の枠組みを決め、その上でイラクの復興と安定確保に取り組む「安保決議 1511」を決議しました。その結果、現在日本を含むおよそ40の国がイラクに軍隊を派遣するとともに90を超える国や国際機関が復興支援に取り組んでいます。イラク

国民が自国の再建に努力することが出来る環境を整備するための復興支援に参加することは、2001年「9.11」事件の後、米国のリーダーシップの下に国際社会の一員として共に戦う「テロとの戦い」を国策とした日本にとって、当然の事と言えます。

さらに、日本にとって最大の脅威である北朝鮮のノドン、共産党一党独裁体制がいまだに生き続ける中国の強大な軍事力の存在、あるいは中台間の緊張など、現下の東アジアの平和を考える時、日米同盟関係の維持、発展は決して欠くことの出来ないことであります。これらの観点から、今回の自衛隊のイラク派遣は、同盟国である米国と行動を共にすることを、自ら主体的に判断をしたものであり、日米同盟、国際協調を行動で証明する大変意義深いことになりました。

また、自衛隊のイラク復興支援特別措置法に基づく活動のための諸準備が行われる段階で、日米同盟下のパートナーシップが部隊レベルで極めて有効的に機能し実を上げています。

先日、私は米空軍横田基地の2003年度優秀隊員表彰の晩餐会に招待され、米空軍第374運用群に対し感謝状贈呈の機会を得ました。374運用群は、横田基地に駐留する輸送機部隊で、空自がイラク復興支援で使用する同じC-130を主力機として装備しています。感謝状は、今回の航空自衛隊の諸準備に際して、374運用群が航空自衛隊に提供した3ヶ月に及ぶ集中・徹底した準備支援・教示活動などに対す

るものでした。具体的には、輸送機運用に関する最新戦術・戦闘技法・手順の教示、輸送機乗員の高度な技量の展示、作戦任務間における安全確保に関する教育、部隊展開に要する施設と後方補給に関する準備事項や関係基地離発着に係わる情報の提供等、また、実際のC-130のクウェート展開のための運航において提供された経験と最新のガイドラインに基づいた詳細なブリーフィング等であります。

まさに、航空自衛隊が自信を持って実施している復興支援活動は、374運用群の積極的かつ献身的な支援がその根底にあると言って良いでしょう。

テロ組織が潜入しているかもしれない状況の中で、この任務を完遂するには多くの困難が伴うと思われませんが、私は自衛隊が必ず立派に任務を完遂すると確信しています。それは、政府レベルで行われてきたイラクにおける綿密な調査、この調査結果を踏ま

えた派遣隊員の安全確保に対する施策などもさることながら、前述しましたように、日米同盟下でのパートナーシップが発揮されるなど、部隊レベルの準備が万全であると信じるからです。

さらに付言すれば、今回の航空自衛隊と374運用群が見せたパートナーシップは、将来の日米共同作戦の概念規定と方向確認を示唆する日米同盟上の特筆すべき出来事だと思います。また、とりわけ重要な米空軍と航空自衛隊との相互の信頼と尊敬に基づく関係も一層強化されたことは言うまでもありません。

最後に、JAAGAの会員として、日本国民として、敬意と感謝を持って、派遣された自衛隊が任務を完遂し、隊員の皆さんが無事帰国されることを見守りたいと思います。

帝京大学生の横田基地研修

—— 修士課程学生を含む志方ゼミの学生28名が横田基地を研修 ——

常務理事 蜂谷治幸

12月18日(木)、在日米軍司令部広報部の支援の下、帝京大学大学生が約4時間にわたり横田基地を研修した。

最近の安全保障問題への関心の高まりもあってか、本研修には帝京大学からは志方教授、修士課程学生を含む28名もの学生が、またJAAGAからは岡本、越智、蜂谷の3名の合計32名が参加した。研修は奥多摩や丹沢の山々、遠く冠雪した美しい富士山もくっきりと見える穏やかな天候の中、米側の万全な準備と暖かい雰囲気のもと、和気あいあいとした楽しいものであった。

参加者はセミフォーマル姿で福生駅に集合、米軍バスにより午前10時在日米軍司令部に移動し研修を開始した。あいにくワスコウ司令官不在であったため、参加者を代表して志方教授、代表学生、岡本、越智両理事の4名がラーセン副司令官を表敬、その

際志方教授からは帝京大学参加者を代表し、縁起物の2004年の干支にちなんだ紅白のモンキー・ボトル・ウイスキーが贈られた。

午前中はマッカーサールームにおいて副司令官臨席の下、司令部各部署の代表者が陪席し、在日米軍コマンド・ブリーフィング及び質疑が実施された。ブリーフィングにおいてはマッカーサー元帥から始まる占領軍時代から現在に至る在日米軍の歴史、組織、任務、配備等の説明を受けた。組織、配備等については一度の説明で簡単に理解できるものとは思えない面もあったが、今まで横田基地とはあまり関係ない歴史上の人物であると考えていたマッカーサー元帥が横田基地と極めて深い関係にあり、また横田基地がその後の日本の安全保障に深いかかわりを持っていた事、そして現在は日本、極東のみならず世界の平和と安全の確保に重要な役割を持っている事等



について、認識を新たに、また深めることができた。

また質疑においては、日頃から国際問題に関心の深い参加者ということもあり、イラク問題、中・台問題、朝鮮問題等に関し幅広く活発な質問がなされた。イラク人による民主化問題、米軍の犠牲が米国世論に与える影響等に関する質問に対しては、中東での勤務経験、防衛研究所に入校の経験を持つ日本通の副司令官は質問の意図を良く理解した上、2次大戦後欧州においてもイラクと同様に多くの反対行動があったことに言及した上で、日本においては天皇制を維持し国民が一つにまとまっていたため各種改革は大変スムーズに行われたが、イラクにおいては宗教、民族等が異なる勢力があり、それらがお互いに憎しみの歴史を持っている上、権力を持った人たちの反目もあり困難な仕事になっている旨の見方を示すと共に、米国は引き続き民主化に努力し所期の目的を達成してゆくとの見解を平易に説明された。

昼食会は将校クラブのアップパー・ボール・ルームで副司令官、参謀長代理、広報部長等参加し、ランチオン形式で実施された。学生はこのような昼食会の経験があまり無いためかまた初対面のせい、は

じめのうちは緊張している様子であったが、そのうち打ち解け将校クラブでの初体験を楽しんでいる様子も垣間見る事が出来た。懇談において米側からは沖縄関連の報道について、米軍に関する事件は過大に報道され過ぎる面があるとの印象を持っている旨の意見も披露された。

引き続き午後からは横田基地及び第374輸送航空団に関するブリーフィング、車窓からの基地施設の研修、米軍放送（AFN）の研修が実施された。横田基地及び第374輸送航空団に関するブリーフィングにおいては、通常の説明の外、横田基地においては全隊員が「武士道の原則」「剣聖の原則」を指針・原則として決定し、この指針・原則にのっとり勤務している事、そのイメージは坂本竜馬のような侍をイメージしている事、また日本のホストネーションサポートに大変感謝している旨の説明があった。

施設研修はAFN施設を除き車窓からのものではあったが、ほとんどの学生が米軍基地は初体験とのことで、大変な興味を示していた。横田基地は3000メートル超の滑走路、東京ドームの約150倍の広大な広さを持つ約11000人の人が住む独立した一つの

町と言え、その中には学校、娯楽施設、体育施設、病院、警察等軍事施設のみならず生活に必要な全ての施設がある旨の説明を受けつつ、実際にこれ等の施設を見ることができた。多くの学生は日本の中の米国の姿に印象深げであった。またAFN局においてはライブ放送の見学や充実した放送施設を研修した。学生はラジオ放送のみならずケーブルテレビの放送用施設等に興味を示していたが、AFN放送が簡易に聴取できる生きた英語の習得の一助になればとの感を持った。

このように単に知識取得のみならず、異文化体験ともいえる内容を含んだ研修は午後3時10分終了し、参加者は往路と同様米軍バスにより福生駅に移動し解散した。

副司令官をはじめとする米側の万全の準備及び真摯な対応もあり、本研修により参加者の在日米軍・



横田基地に関する理解は格段に向上したものと思われる。また本訪問は自衛隊のイラク派遣大詰め時期、志方教授にとっては大変お忙しい中での研修であったが、研修中も学生に対し単なる知識教育にとどまらず、マナー等を含めての全人的機会教育を適時適切に実施されている姿には強い印象を受けた。

横田基地訪問の所見

帝京大学大学院生 平野干城

私は、今までの富士学校や入間基地など、自衛隊関連施設の見学は何度かありますが、米軍基地の見学は初めてでした。また、基地施設の見学だけではなく、学生代表として中将の部屋で、挨拶をしたことは何より印象に残っています。さらに、准将に現在の日米関係・イラク問題などについて直接質問をできたことは、大変貴重な体験でした。

私にとって最大の収穫は2点あります。それは、米軍が日米同盟を非常に重視しているということが理解できたことと、准将から直接アメリカの政治(外交・安全保障政策)についてお話を聞いたことです。

日米関係から考えてみたいと思います。現在アメリカはイラクの統治に手を焼いており、非常に窮しているというのが実情です。ですから、アメリカは日本国に自衛隊を派遣してもらい、少しでも負担を軽減したいと考えています。

自衛隊派遣について、国内世論は2つの意見に集

約されていると思います。1つ目は、自衛隊を派遣して日米同盟をさらに強固にし、今後の北朝鮮問題解決に協力を求めたり、きれいな話ではありませんが、イラク復興事業の入札参加資格・石油取引など、さまざまな事に対し有利にはたらけば、これも国益の一つであるという考え方と、2つ目は、自衛隊を派遣せず、国連による復興決議を待ち、国連中心主義を貫き、国連旗のもとで自衛隊を派遣し、原理・原則を貫くのも国益であるという考え方があります。

そこで、ブリーフィングや質疑を通してもう一度、我が国が抱える問題を考えてみると、「尖閣諸島問題」・「北方領土問題」・「北朝鮮核開発問題」などは、核保有国や独裁国家などが相手国です。専守防衛に徹し、相手国内に攻撃を仕掛けることのできない自衛隊では、到底日本の安全を保障することはできません。安全保障は「抑止戦略」と「軍備管理」の上に成り立っています。我が国は日米安全保障条約が、これらを成り立たせ、極東のパワーバランス

を保っています。しかし、今アメリカに日本から兵を引かれたらと、真剣に考えたら恐ろしいものがあります。ですから、私は自衛隊をイラクに派遣し日米同盟を強固なものにして行かなければならないと強く感じました。

世間一般に、アメリカは世界の国々に基地を置き、世界の軍事力を掌握しようとしているといった意見などがありますが、この考えが全く当たっていないとは思いませんが、実際に働いている、現場の在日米軍は、日本を同盟国と強く意識し、日本国民に日米関係のあり方を真剣に考えてほしいという気持ちで、ひしひしと伝わって来ました。

会食のときに共和党と民主党の外交政策は、両党ともほぼ変わらず、政権交代が行われても、ぶれないと准将がおっしゃっていて、その通りだと思いました。

日本の場合、自民党がアメリカ重視なのに対し、民主党は国連中心という姿勢をとっています。民主

党は、政権交代を目標にしているなら、まず現実を直視してアメリカとの関係をどの様にしてゆくのかを明確にしてゆかない限り、安心した安全保障のあり方が国民に理解されないので、政権は獲得できないと思います。

今回、与党・野党第一党の議論を見ても自衛隊を派遣することが問題ではなく、自衛隊を法的にどの様な位置付けで派遣するのかというものであり、過去の野党第一党に比べると少しずつではありますが、現実的な議論が始まったと思っています。

私は今まで、どちらかという法的な根拠や、原理・原則を貫くことが必要だと思っていました。しかし、現在進行している問題を解決するためには、正論だけでは決して解決できない問題もあり、政治の難しさをあらためて感じました。

非常に有意義な横田基地見学となりました。関係者の方々に感謝します。

横田基地見学に関する所見

帝京大学大学院生 富山 誠

私は今回の横田基地見学が2回目になる。1回目は私が大学4年生であった2001年の6月で、その時は、「日米安保」や「生物・化学兵器」、又「日本における台湾の重要性」についてアメリカ側の意見を聞いたりした。そしてそれから3ヵ月後にニューヨークで同時多発テロが起き、その影響で、日本にある米軍施設等の重要施設もテロの標的になる恐れがあるとして、厳戒態勢が敷かれることとなり、横田基地も厳戒態勢が敷かれることとなった。

それで今回、横田基地の見学の参加にあたり、厳戒態勢を敷かれてから結構の月日が経つが、現在もそれが続いているのではという印象を抱いていたのだが、いざ行ってみると、警戒態勢は敷かれていたものの、テロ発生時に比べれば、随分和らいだ感があった。

今回はグリーンフィング後に、「イラク統治」、「自

衛隊のイラク派遣」、「中国の軍事大国化に伴う日本の軍事力の強化」に対してのアメリカの見方について質疑応答が行われた。

まず、「イラク統治」についてアメリカ側は「イラクには日本とは違い民族宗派が異なるが3つの勢力が存在していて、それが何百年間にも渡って憎しみあってきた。3勢力が協調をとっていくことは困難であるが、平和のためにやっつけていかなければならない」と意見を述べられた。

又自衛隊のイラク派遣については、「自衛隊のイラク派遣という小泉首相および国会の決断もさることながら、その派遣時期決定をフセインが拘束される前に決断したことに対し評価したい。又、自衛隊は現地に行っても十分に役割を果たすことができると思う。ただ負傷したり殺されたりすることも考慮しなければならない」と述べられた。

そして「中国の軍事大国化に伴う日本の軍事力の強化」については、「日本では集団的自衛権が議論されるなどしてここ10年で大きく変わってきたが、中国でも人民解放軍の数が縮小され、装備の近代化やハイテク化が進んできている」との意見がだされた。

こういったアメリカの見方に対し私見として、まず「イラク統治」については、アメリカ側は「3つの勢力は平和のためにやっていかなければならない」というけれども、何百年間という時間の空白を一気に埋めるということは非常に困難なことであり、仮に主権を彼らに移譲したとしても、彼ら自身でイラクという国家をうまく機能させていくということが果たしてできるだろうか疑問が残る。又テロに関して、少なくとも主権移譲が行われる予定の6月末までは反米勢力によるテロは続くと思えるが、問題は7月以降である。主権移譲ができなかった場合は、一段と激しさを増してテロが起こる可能性は極めて高い。が問題は主権移譲できたときである。この段階で米軍が縮小もしくは撤退ということになれば、衝突(テロ)はそれほどもないかもしれないが、米軍が駐留した場合、何かのはずみで衝突する危険性はきわめて高くなるだろう。

よって以上のことから、これからのイラクの統治に向けた動向に注目していきたい。

「自衛隊のイラク派遣」については、もう日本政府は去年「イラク特措法」を成立・可決させ、衆議院選挙で与党が過半数の議席を獲得し、「イラクへの自衛隊派遣の基本計画」を閣議決定させた。そして、去年度末には航空自衛隊の先遣隊を現地に向か

わせた。今年に入ってから、さらに航空自衛隊の本隊や陸上自衛隊の先遣隊を現地に向かわせ、そして今後は陸上自衛隊の本隊も現地に向かわせる予定である。

こういった状況になってくると、政府は憲法上の問題はあるとはいえ、今更イラク派遣の是非について議論している場合ではないのであり、むしろ、もう派遣すると決まった以上は、「武器使用基準の変更」など自衛隊員の死傷者を少なくするにはどうすればいいのか議論するべきなのである。又、国民も今回の自衛隊員は戦闘行為をしにいくのではなく、人道復興支援を目的に行くのだから、快く現地に送り出してあげてもいいのではないかと思う。

「中国の軍事大国化に伴う日本の軍事力の強化」については、当然、中国の軍事力の強化する動きが高まるようであれば、それに対抗する手段として日本も軍事力の強化する動きが出てくると思う。がその前に、中国の軍事力が強化してきている要因のひとつとして、日本が中国に供与しているODAの一部が軍事費に回されていて、しかも毎年、対中ODAの供与額が増加しているに伴い、軍事費も増加してきていることである。

政府も対中ODAの削減もしくは廃止といった見直しを行ってはいるが、実現には程遠い。

だから今後、軍事力の強化も必要ではあるが、その前に一刻も早い対中ODAの見直しの実現を望む。

最後に、この横田基地見学を企画し実現していただいた志方教授や越智氏はじめ、協力していただいた横田基地の関係者の皆さんに感謝したいと思います。どうもありがとうございました。

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

日米交歓 SPORTEX'03 Golf Tournament



Briefing before shotgun

日米交歓の恒例行事、JAAGAインビテーションナル・ゴルフトーナメント「SPORTEX'03」（第6回）は、11月24日（月）米軍多摩ヒルズ・ゴルフコースで開催された。

米側はワスコ第5空軍司令官（兼ねて在日米軍司令官）以下約30名が米空軍（USAF）横田基地から参加、日本側は航空自衛隊（JASDF）から津



The First Party

曲航空幕僚長以下約40名と、JAAGAから大会役員を含め村木鴻二会長以下約30名の会員が参加した。

数日來の好天予報が、前日それも夕刻の予報で俄かに文字通りの「怪しい雲行き」展開となり、今回も、天気予報に裏切られた昨年大会の“トラウマ”再来か！と直前まで気をもませることと相成った。役員連中のそんな気苦労とは無関係かのように、当日は朝一番のティーオフに備え、日米のゴルフ猛者達が未だ明けやらぬ早朝から三々五々と来場した。クラブハウスは、朝食を交えての日米交歓の賑やかな雰囲気とスタート前の緊張感も多少は交錯したようなムードの中、JAAGAのボランティア大会役員の何かと気ぜわしい動きと共に、スタート準備は整齊と進行し、7時には参加者全員がクラブハウス前に集合した。大会役員の競技要領の説明を受けた後、各パーティは乗用カートに分乗しそれぞれのスタートホールに進出し、定刻7時30分ショットガン方式で各ホールが一斉にティーオフ、生憎の曇天を突

き上げるようにして、熱戦「SPORTEX'03」の火蓋が切って落とされた。選手の組み合わせは、USAFとJASDFそれにJAAGAの各メンバーの混成で、パーティーそれぞれに舌戦含みで格好の親善友好の場となった。前日までのポカポカ陽気とは違って、この秋一番の冷え込みとなった寒空の下、スタート早々は各プレーヤー共々にスウィングリズムもいまいちの感であったが、ホールを重ねて行くうちに、熱の入った競技が展開された。

各チームまちまち(?)の英会話レベルの中で、よく伝わらないコミュニケーションが幸いして、果敢にも鋭い舌戦を挑んでいるつもりで本人の意思とは裏腹に、和やかなジョークと相成る風景も随所に見られ、日米親善の輪があちこちのホールに広がっ

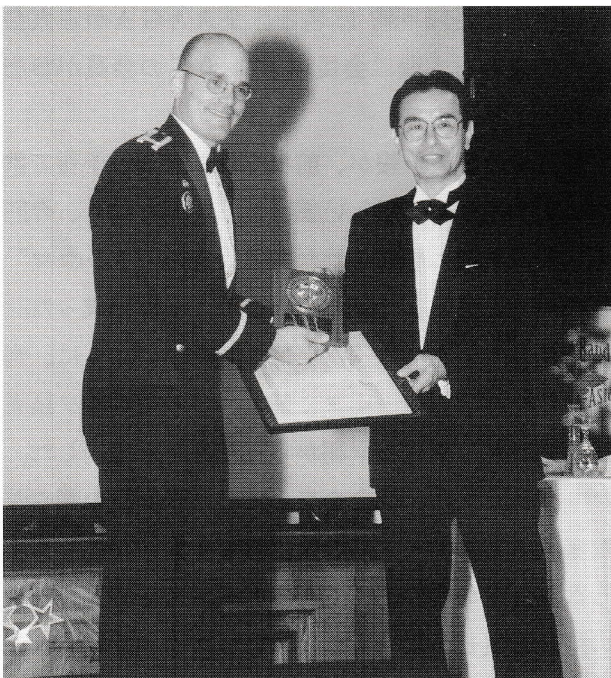
た。日頃の練習不足や運動不足も物かはと、予期せぬ若干の長距離走も一部見られたが、好プレーも続出し、ひとりのケガもなく無事に全競技を終了した。

その後、クラブハウスで昼食をとりながら、例よっての戦果自慢や自己反省の会話が弾み、日米コミュニケーションのワイワイガヤガヤの中、成績集計も順調に進み、表彰式に移った。村木JAAGA会長から入賞者それぞれに賞品が贈られ、奇しくもこの日誕生日を迎えたワスコ司令官にはハッピーバースデー賞が贈られた。また津曲空幕長からワスコ司令官令夫人宛のスペシャルプレゼントが贈られた。同司令官のユーモア溢れる御返しスピーチに満座の拍手があり、大成功のSPORTEX'03は終了した。

(吉田常務理事記)

JAAGA AWARD '03

— 新しい舞台で日米隊員の表彰を実施 —



JAAGA Award '03
Col. Eberhart & President Muraki

JAAGAは、平成10年度から日米隊員の表彰を行っている。これは、JAAGA設立の趣旨の鑑み、日米の友好並びに信頼関係の向上に貢献した日

米双方の隊員に対し、JAAGA会長から表彰状と記念品を贈呈しているものである。

本表彰は、昨年度までは三沢、横田、嘉手納各基地のエアフォースボールの場において実施してきたが、米側からの要望(提案)や、JAAGA名誉会員の意見等を聴取して検討した結果、今年度からは米空軍のANNUAL AWARD BANQUET(年度優秀隊員表彰の行事)に併せて実施することとなり、時期も年度末となった。ANNUAL AWARD BANQUETは年度を締めくくる米空軍恒例の表彰行事で、エアフォースボールと同様にNCOクラブ等で盛大に行われるものであり、JAAGAの日米隊員表彰を行う場として一段とふさわしい舞台が与えられた。

平成15年度は、この新しい舞台で、三沢基地においては平成16年1月30日に高橋副会長が、嘉手納基地においては1月31日に伊藤副会長が、また横田基地においては2月7日に村木会長が、それぞれ日米双方隊員の表彰を行なった。各基地における

表彰行事は、日米双方の関係基地司令や上司、またJ A A G Aからは小澤三沢支部長、石津那覇支部長も列席し、盛大に執り行われた。なお横田基

地の第374輸送航空団運用群は、部隊挙げての功績により、初めて部隊として受賞した。被表彰者は次表のとおり。

航空自衛隊	米空軍
(三沢) 北空司令部 空曹長 盛 康	(三沢) 第35保全中隊 上級曹長 D. ニコルソン
(府中) 防空指揮群業務隊 1等空曹 村田圭史	(横田) 第374輸空団運用群 エバハート大佐 及び運用群
(入間) 中警団補給隊 准空尉 岡本重文	
(那覇) 那覇救難隊 2等空曹 横井 誠	(嘉手納) 第909空中給油隊 軍曹 W. マックイーン

* 中警団 岡本准尉は海外旅行で不在のため、入間基地司令に伝達依頼した。

(木村常務理事記)

日米NCO相互交流支援

益々充実する日米NCOの相互交流 J A A G Aの支援に対し、米先任下士官から丁重な礼状

平成15年11月25日午後、つばさ会/J A A G A訪米団に対する支援のお礼のため、つばさ会杉山副会長とともにワスコー第5空軍司令官を訪ねたJ A A G A岩崎常務理事から、同司令官立ち会いのもとに、第5空軍先任下士官ムーア先任曹長(CM Sgt)に対し、J A A G Aからの15年度分の日米NCO相互交流に対する支援金を贈呈した。

席上、岩崎常務理事が「J A A G Aは、日米NCOの相互交流が更に発展充実していくことを期待して

おり、今後とも支援を続けていきたい」旨を述べたのに対し、米側からもこのプログラムを高く評価するとともに、J A A G Aの支援に感謝の意が表された。また、後日、改めてムーア先任曹長から村木J A A G A会長宛に丁重な礼状が届けられた。

本年度の実施状況は次のとおりであり、小牧基地が諸般の状況から多忙となったため、美保基地に変更して実施された。

	基地名	参加人員	実施期間
日本側受入 (米軍側派遣)	小 松	4	15年11月7日～11月14日
	千 歳	7	16年2月23日～3月5日
	美 保	6	16年3月10日～3月18日
米国側受入 (空自側派遣)	三 沢	5	15年8月18日～29日
	横 田	4	15年9月8日～18日
	嘉 手 納	6	16年2月6日～20日

(木村常務理事記)

第5空軍先任下士官からの礼状（抄訳）

2003年12月1日

親愛なる村木元空将殿

私は、第5空軍男女下士官とワスコ中將に代わり、第5空軍下士官交流計画に対し日米エアフォース友好協会（J A A G A）から賜りました継続的御支援に対し感謝の意を表します。今回の御貢献に感謝致します。1999年から今日まで、J A A G Aは本計画に寄付をして頂いています。皆様からの寄付は大いに感謝されており、加えて他の両国間の行事と同様の私たちの交流計画に対してこの寄付は経費的に大きく貢献しています。今まで、私たちの下士官相互交流計画は大成功でした。航空自衛隊および米空軍の隊員たちは齊しく嘉手納・三沢及び横田基地での交流を賞賛しています。私たちは逐年この計画の実施基地を追加しており、現時点で来年は航空自衛隊の基地3カ所の追加を希望しています。私は岩崎克彦元空将同席・交歓する機会を嬉しく思うとともに、贈呈のため横田基地を訪問されたことに感謝いたします。皆様方の私達の下士官相互交流計画に対する御好意並びに御高配に対し感謝いたします。皆様方の御寄付に感謝申し上げます。

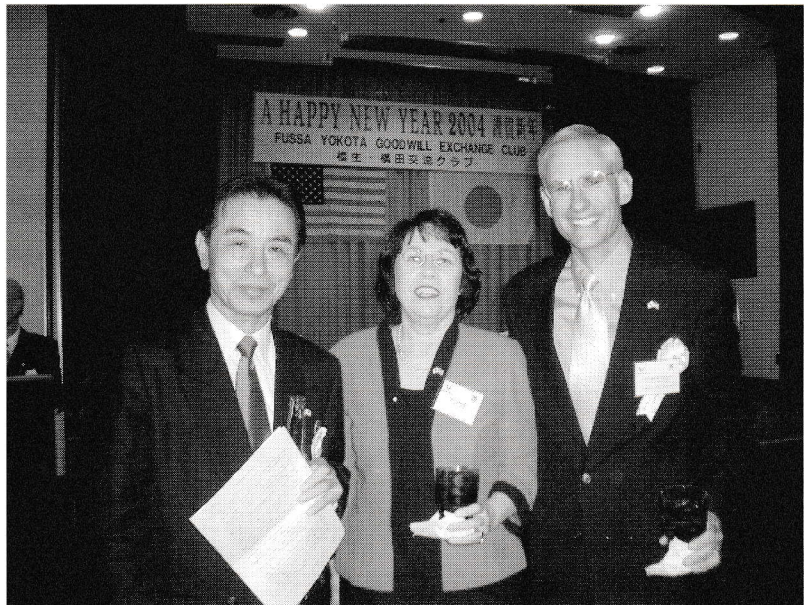
敬具

福生・横田交流クラブ新年会に出席して

1月28日、本年も福生・横田交流クラブの新年会が横田基地将校クラブで開催された。村木会長以下4名が招待され出席した。石川同クラブ会長の挨拶の後、米軍を代表して在日米軍副司令官のラーセン准将とシスラー横田基地司令が挨拶をされた。御両名とも流暢な日本語でスピーチをされ、出席者一同は驚きとともに深い感銘を受けた。シスラー大佐は日本文化にも大変興味を持たれており、特に武士道についての見識の高さに目を見張るものがあった。また、部隊のロゴマークは『SAMURAI』の文字とともに武士と刀をあしらったもので、日本文化を吸収しようとする意気込みが感じられた。同大佐は職場でも各種文書には署名と印鑑を使われるそうで、流暢な日本語とともに彼の日本通ぶりに印象深いものがあった。

石川会長はじめ福生・横田交流クラブの皆様には、毎年J A A G Aに対して新年会へご招待を頂いていることに紙上を借りて御礼申し上げます。

(越智常務理事記)



Gen. Muraki, Col. & Mrs. Shissler

ジャクソン退役大佐を囲む晩餐会に出席して

去る2月26日、横田基地将校クラブにおいてシスラー基地司令主催による「メダル・オブ・オナー」勲章受賞者のジャクソン退役空軍大佐を囲む晩餐会に出席した。同勲章は米合衆国の勇士に与えられる最高勲章の一つであり、1863年に最初の受賞者であった。一兵士の任務を遥かに超えた武勲を挙げた者のみに授与される勲章である。ジャクソン大佐は生存する空軍関係受賞者5名のうちの一人であり、とても80歳を超えているとは思えぬお元気さで、晩餐会開始前のカクテルでは出席者一人一人と記念写真におさまっていた。同大佐は第2次世界大戦に参

戦し、その後朝鮮戦争では107回、ベトナム戦争では296回の出撃の経験を有する戦闘機パイロットである。ベトナム戦において彼の決死的な活躍により、敵の激しい砲火の中から同胞3名を奇跡的に救出することに成功した。この武勲により最高勲位である「メダル・オブ・オナー」が授与された。ジャクソン大佐はスピーチの中で「同勲章受章者は現役の将官を含む全ての軍人から敬礼を受ける」ことを誇らしげに紹介した。「メダル・オブ・オナー」の名誉の大きさを痛感した。

(越智常務理事記)



Medal of Honor Winner Col. (Ret.)
Joe Jackson and Col. Shissler

「日本国家戦略研究所」による勉強会

—— 当協会の会員が実施した日米安全保障啓蒙活動の一端を紹介 ——

平成 15 年 10 月 29 日、「日本国家戦略研究所」のメンバー 18 名による在日米軍勉強会が実施された。同研究所は「日本再建」を目指す勉強会で、会員は大学教授、会社社長及び役員、ジャーナリスト、主婦等の多方面からの多士済々で構成され、原則として月に一度の勉強会を行っている。

今回の勉強会は、日米安保の実情と我が国周辺の安全保障に関する在日米軍の活動状況を研修するためのものであった。一行は先ず在日米軍司令官ワスコ中将を表敬し、その後に副司令官ラーセン准将、参謀長ハンプトン大佐、広報部長ウォージンスキー大佐以下の司令部各部からの幕僚達臨席の下に在日米軍の活動状況等についての説明を受けた。その後の質問は「尖閣列島の防衛について米軍は日本を支援するか」「日本の核武装についてどう思うか」「在日米軍の兵力再編は近々行なわれるのか」「日本周辺地域とは具体的に何処なのか」等々の難しい質問が続き、ラーセン准将はじめ幕僚達も応答に苦勞する場面もあった。予定の 2 時間は瞬く間に過ぎてしまったが、全員在日米軍についての理解を深め、その後は基地将校クラブにおいて訪問した全員がラーセン副司令官に招待されて幕僚達と和やかに昼食を共にし、充実したひとときとなった。

午後は C-130 輸送機を装備する第 374 輸送航空団を訪ねてその活動状況について説明を受けたが、当航空

団司令シスラー大佐の指導方針が「武士道」であり、部隊のニック・ネームは「サムライ部隊」であるとの説明に一同大いに驚くと共に我々日本人が忘れてきている我が国の素晴らしい精神文化を外国の人達が尊敬してそれを鑑として任務を果たそうとしている姿に感動し、「日本再建」を目指す当研究所の活動に大きな指針を知らされたような刺激を得た事はこの勉強会の予想外の収穫となった。

訪問への礼状に対し、ラーセン副司令官、ウォージンスキー広報部長から「大変有意義な質疑、応答ができて我々も勉強になりました。是非また御訪問下さるようお待ちしております」との丁寧な返事が届いた。米軍からの説明に対する多くの質問がラーセン副司令官以下に好印象を与えた。

(大橋武郎会員記)



Brg. Gen. Timothy R. Larsen and visitors

… 新入会員の紹介 …

1 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
山 本 修 三	160-0022	東京都新宿区新宿7-22-3	03-3200-2484
エアーニッポン(株)	144-0041	大田区羽田空港3-3-2 西旅客ターミナル5	03-5757-5900
安 永 英 信	179-0072	練馬区光が丘3-9-2-1401	03-3938-6380
富士総合株式会社	160-0004	新宿区四谷3-9 慶和ビル	03-3353-6277
横 山 恭 三	338-0003	さいたま市中央区本町東6-6-24-509	048-859-3425
(株) 東 芝	212-8581	川崎市幸区小向東芝町1	044-548-5846
石 黒 正 昭	358-0003	入間市豊岡1-9-1-904	04-2966-1785
(株) N T T デ ー タ	105-0014	港区芝3-2-18 芝Aビル	03-5232-2552
渡 邊 聖 夫	202-0022	西東京市柳沢5-9-19	04-2469-1685
日商岩井エアロマリン(株)	107-8518	港区赤坂2-17-22	03-5574-6055

2 個人賛助会員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
大 山 義 一	331-0825	さいたま市北区櫛引町2-111-3	048-665-1657
埼玉県隊友会	330-0061	さいたま市浦和区常盤4-11-5	048-831-6043
青 木 正 男	349-0125	蓮田市御前橋2-5-21	048-768-7000
日本信用警備保障(株)	330-0056	さいたま市浦和区東仲町9-11	048-881-1000
西 山 正 昭	414-0055	伊東市岡378-1-2-103	0557-36-6680
伊東カントリークラブ(株)	414-0053	伊東市荻694-1	0557-36-5865

会 員 募 集

J A A G A は、創立 8 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋 5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「電話」 03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株))

03-3212-3111 村岡亮道(三菱重工(株))

03-5400-4721 宇都宮靖(横浜ゴム(株))

03-3286-0339 新井洋一(新東亜交易(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

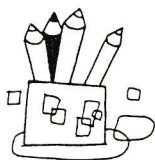
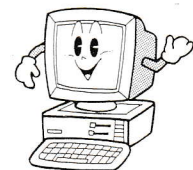
A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)

Fax 03-3437-8755